

【草花の部屋】

ボリジ（ムラサキ科ルリジシャ属 *Borago officinalis*）

和名；ルリヂサ、ルリヂシャ **別名**；スターフラワー、ルリジサ **英名**；borage

ムラサキ目 一年草 **原産地**；南ヨーロッパ

花言葉；心変わり、勇気、保護、愁いを忘れる **花の色**；青、白



← 写真－1 ボリジ

撮影日：2023 年 5 月 29 日

撮影場所：彦根市庄界公園にて

撮影者：M さん



↑ 写真－2 ボリジ

撮影日：2023 年 5 月 29 日

撮影場所：彦根市庄界公園にて

撮影者：M さん

彦根市庄界公園のバラの鑑賞に訪れた際、見かけました。この公園には、バラの他やハナショウブ等も植栽されていました。

ボリジは地中海沿岸に自生する一年草のハーブで、花後に種を付け枯れていきます。全草が白い毛でおおわれ、とくに楕円形のくすんだ緑色の葉は触ると痛いほどの細かな毛があり、花はマドンナブルーと呼ばれる青色で、透明感のある青い星形の花が印象的な一年草です。白や桃の品種もあるそうです。

開花時期は春から夏にかけてと長く、長期間、咲き続けてくれます。細かい毛に覆われたつぼみは桃色です。花は一日で終わってしまいますが、たくさんのつぼみが順々に青い花へと開花してくれます。

丈夫で寒さには比較的強く、冬はロゼットの状態で過ごします。こぼれダネでよ

くふえ、初夏に咲いた花のタネが発芽して、その年の秋に開花することもあるそうで、余分な苗やタネとりが終わった株は抜いて、堆肥化するのがお薦めだそうです。

コンパニオンプランツとしても知られ、近くに植えた植物にマメコガネがつくのを防ぐと言われています。また、イチゴの実つきをよくするという説もあるそうです。

がっしりと太く、一見頑丈そうに見えるボリジの茎ですが、実は茎の中は空洞なので、大きくなりすぎた場合や、風の強くあたる場所では支柱での補強が効果的です。また、花が咲き終わった主茎を切り取ると、脇の枝から花が咲いてきます。

エディブルフラワーとして、フレッシュな花の萼を外してサラダに散らしたり、砂糖漬けにしてケーキを飾ったり、氷に閉じ込めて冷たい飲み物に浮かべたりします。若い茎葉は少量ならサラダや天ぷらなどで食べることができるそうですが、ボリジを含むムラサキ科の仲間は微量のピロリジジンアルカロイドを含有することから、現在では、ボリジの葉を常用または大量に飲食・薬用にすることは安全性に疑問があるとされます(タネのオイルには含まれていないそうです)。また、茎葉に生える剛毛には、かぶれる人もいるので注意が必要です。

<ちょっと一言>

純白の花をつける品種‘アルバ’は、白くけぶるような茎や葉と相まって美しく、英国のシシングハースト城のホワイトガーデンに植えられていることでも有名だそうです。